

## 東京都がん対策推進計画と調査項目

(全体目標)

分野別施策	調査対象							設問内容	備考
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点 患者	小児 家族	病院	診療 所	設問 No		
全体目標									
I	がんによる死亡者の減少 (75歳未満年齢調整死亡率の20%減少)								年齢調整死亡率 (国立がん研究センター)
II	全てのがん患者及びその家族の不安の軽減並びに療養生活の質の向上	都民						<医療が進歩していると実感できる> 24 がん医療は以前よりも進歩していると感じるか	再
III	がんになっても自分らしく生活できる社会の構築 (IとIIによりIIIを目指す)		患者	家族				<安心(情報提供)> 15・7 治療方針決定の際に、医師等から十分説明があったか、説明は分かりやすかったか、不安は解消したか	
			患者					<痛みは軽減できているか> 22 痛みを伝えてから速やかに緩和ケアが受けられているか(身体、精神)	再
			患者					23 QOLが保たれ、日常生活に影響なく過ごしているか	再
			患者	家族				<相談支援について> 30・18 がん相談支援センターを利用したことがある場合：満足度、今後-2 後の利用希望の有無	再
			患者	家族				<就労について> 35 がん罹患後の就労状況	再
								23 がんに関与した家族の介護のため、仕事を辞めたり、軽減したりしたか	再

(基本情報)

分野別施策	調査対象						設問 No	設問内容	備考	
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点		小児 家族	病院				診療 所
			患者	家族						
		都民 都民 都民 都民 都民						<基本情報> 1 年齢 2 性別 3 住所（区市町村） 4 がん経験者か 5 身近にがんに罹患した人の有無 -2 「有」の場合：回答者との関係		
		患者 患者 患者 患者 患者 患者 患者						1 年齢 2 性別 3 住所（都（区市町村）道府県） 4 同居者の有無（家族構成） 5 現在の受診状況（入院・外来） 6 通院時間 7 当院にいつ頃から受診しているか		
			家族 家族 家族 家族 家族					1 年齢 2 性別 3 住所（都（区市町村）道府県） 4 患者の現在の受診状況（入院・外来） 5 患者のがんの部位、現在の治療状況		
				小児 小児 小児 小児 小児				1 罹患している子どもの年齢 2 // 性別 3 住所（都（区市町村）道府県） 4 家族構成、主に治療に付き添っている人 5 通院時間（最寄でない場合は宿泊場所）		

## (1 がんの予防の推進)

分野別施策	調査対象						設問 No	設問内容	備考	
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点		小児 家族	病院				診療 所
			患者	家族						
1 がんの予防の推進										
		都民					<p>&lt;基礎知識&gt;</p> <p>6 がんについての考え（強く思う、多少思う、あまり思わない、思わない）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-ア 治る病気である</li> <li>-イ 痛みは取り除けない</li> <li>-ウ 自分はがんにはならないと思っている</li> <li>-エ 多くのがんは早期発見により治療が可能である</li> <li>-オ がんにならないためには生活習慣の改善が重要である</li> <li>-カ がん罹患者は40歳代頃から患者が増え、年齢と共に増加する</li> <li>-キ がんになったら働くことはできない</li> <li>-ク がんは高額な医療費がかかる</li> </ul> <p>-2 その他がんについて思うこと（自由記載）</p> <p>7 がんの原因と思う項目（選択上位3つ）</p> <p>8 がんの危険性を高めると思う項目</p>			
<p>(1) 成人の喫煙率減少と効果的な受動喫煙防止対策の推進</p> <p>ア 成人の喫煙率を下げる （やめたい人がやめた場合の喫煙率 全体12%、男性19%、女性6%）</p> <p>イ 未成年者の喫煙を未然に防止し未成年者の喫煙をなくす</p> <p>ウ 受動喫煙の機会を有する者の割合を下げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政機関及び医療機関0%</li> <li>・ 受動喫煙の無い職場の実現</li> </ul>		都民 都民						<p>国民生活基礎調査</p> <p>厚労省研究班報告</p> <p>国民健康・栄養調査 東京都民の健康・栄養状況 がん予防・検診等実態調査</p>		

<p>(2) ウイルスや細菌の感染に起因するがんの予防</p> <p>ア 肝炎ウイルスに関する正しい知識の普及啓発、区市町村、事業者等と連携した検査体制の整備及び受診勧奨の促進</p> <p>イ 子宮頸がん予防（HPV）ワクチン接種と検診受診促進の普及啓発</p>	都民	都民 都民	都民 都民	都民 都民	<p>&lt;基礎知識&gt;</p> <p>13 肝炎ウイルスについての考え （強く思う、多少思う、あまり思わない、思わない） -ア 肝炎から肝硬変、肝がんになる可能性がある -イ 肝炎になっても自覚症状はない -ウ 肝炎になったら治らない -エ 肝炎は、咳、抱き合う及び食器の共有など通常の社会生活では感染しない -オ 近年、若年層を中心に性感染等によるB型肝炎の感染が増加している</p> <p>14 肝炎ウイルス検査を受けたことがあるか</p> <p>15 お住まいの区市町村で肝炎ウイルス検査を受けることができるのを知っているか</p> <p>16 受けたことがあるのはどの検査か</p> <p>17 どのような機会に検査を受けたか</p> <p>18 どこで検査を受けたか</p> <p>19 なぜ、検査を受けないか</p>	がん予防・検診等実態調査
<p>(3) 科学的根拠に基づいたがんを遠ざけるための生活習慣に関する取組の推進</p> <p>ア 適切な量と質の食事をとる人を増やす （野菜・果物を適切に摂取する、食塩の摂取量を減らす）</p> <p>イ 日常生活における身体活動量（歩数）を増やす</p> <p>ウ 適正体重を維持している人の割合を増やす</p> <p>エ リスクを高める量の飲酒をしている人の割合を減らす</p>						<p>国民健康・栄養調査 東京都民の健康・栄養状況</p> <p>国民健康・栄養調査 東京都民の健康・栄養状況 国民健康・栄養調査 健康に関する世論調査</p>

(2 がんの早期発見の推進)  
 (3 がんを予防するための健康教育の推進)

分野別施策	調査対象						設問 No	設問内容	備考	
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点		小児 家族	病院				診療 所
			患者	家族						
2	がんの早期発見の推進									
	(1) がん検診の受診率向上施策の推進 ア がん検診受診率の向上を目指す (胃・肺・大腸・子宮頸・乳がん 50%)	都民 都民 都民 都民					<基礎知識> 9 がん検診は何歳から受ければよいと思うか 10 がん検診を受診する際、どのような機会を受診したいか 11 要精密検査を受けることが大切であることを知っているか 12 検診についてどのような情報が得られるとよいと思うか	健康増進法に基づくがん検診の対象人口率等調査 がん予防・検診等実態調査		
	(2) 科学的根拠に基づくがん検診の実施と質の向上 ア 全ての区市町村で科学的根拠に基づくがん検診を実施し、質の向上を目指す							精度管理評価事業		
3	がんを予防するための健康教育の推進									
	(1) 子供や成人に対する健康教育及びがんの予防に関する普及啓発の推進 ア あらゆる年齢層に対し、がんを予防するための健康教育を推進	都民 都民 都民					<基礎知識> 20 がん教育を始める時期として、ふさわしいと思う時期 21 がん教育を行うのにふさわしいと思われる場所(家庭、学校、職場、病院、その他) 22 がんを予防するための教育は必要であると思うか			

(4 高度ながん医療の総合的な展開－医療)

分野別施策	調査対象						設問 No	設問内容	備考
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点 患者 家族	小児 家族	病院	診療所			
4 高度ながん医療の総合的な展開									
(1) 患者・家族が安心できるがん医療提供体制の推進	都民  都民						<p>&lt;医療に関する意識&gt;</p> <p>23 自身や家族ががんに罹患した時、こういった環境が整っていることが望ましいと思うか</p> <p>24 がん医療は以前よりも進歩していると感じるか</p> <p>&lt;安心・納得&gt;</p> <p>12 当院でどのような治療を受けたか</p> <p>13 現在の治療状況</p> <p>14・6 治療方針の決定方法</p> <p>15・7 治療方針決定の際に、医師等から十分説明があったか、説明は分かりやすかったか、不安は解消したか</p> <p>16・8 セカンドオピニオンについて説明があったか</p> <p>17・9 セカンドオピニオンを受けたか</p>		
ア 都の特性を活かした地域医療連携体制を整備する		患者 患者 患者	家族 家族			病院 診療所	<p>&lt;拠点病院以外での治療状況&gt;</p> <p>18・10 当院以外で、がんの治療を行っている医療機関の有無</p> <p>-2 「有」の場合：治療内容</p> <p>-3 「無」の場合：当院以外でも同様の治療が受けられる場合、併診の希望の有無</p> <p>19 東京都医療連携手帳を知っているか、持っているか</p> <p>&lt;基本情報&gt;</p> <p>1.1 貴院で対応しているがん診療の内容</p>		
イ がんの集学的治療の一層の推進を図る		患者 患者					<p>&lt;集約化の状況&gt;</p> <p>8 がんが見つかったきっかけ（自覚症状、検診、他の疾患治療中）</p> <p>-2 「自覚症状、検診」の人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すぐに受診したか、最初に受診した医療機関はどこか</li> <li>・ 拠点を受診するまでに受診した医療機関</li> <li>・ がんと診断された医療機関はどこか</li> </ul> <p>-3 「他の疾患治療中」の人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発見された医療機関</li> <li>・ 拠点病院を受診するまでに受診した医療機関</li> <li>・ がんと診断された医療機関はどこか</li> </ul> <p>9 当院での治療を選択した理由</p> <p>10 がんと診断された部位</p> <p>11 がんと診断された時の病状</p>		
ウ がんの医療提供体制に関する情報の提供を行い、患者・家族の理解を促進する	都民						25 拠点病院、協力病院という制度を知っているか		

分野別施策	調査対象							設問内容	備考
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点		病院	診療所	設問 No		
			患者	家族					
4 高度ながん医療の総合的な展開									
(2) がんと診断された時からの切れ目のない緩和ケアの提供	都民						<p>&lt;緩和ケアのイメージ&gt;</p> <p>26 緩和ケアのイメージ</p> <p>20・11 緩和ケアのイメージ</p> <p>21 スクリーニングは定期的に受けられているか（身体、精神）</p> <p>22 痛みを伝えてから速やかに緩和ケアが受けられているか（身体、精神）</p> <p>23 QOLが保たれ、日常生活に影響なく過ごせているか</p> <p>24・12 緩和ケアバッチを知っているか</p> <p>&lt;終末期について&gt;</p> <p>27 自分なら人生の最終段階（終末期）をどこで過ごしたいか</p> <p>25・13 人生の最終段階をどこで過ごしたいか（過ごしてほしいか）</p> <p>26・14 人生の最終段階について、主治医等と話をしているか</p> <p>27・15 人生の最終段階について、家族と（患者と）話をしているか</p> <p>28・16 在宅療養の不安</p> <p>29・17 自宅の近くに往診を行う診療所があるかどうかを把握しているか</p> <p>&lt;緩和ケアの実施状況&gt;</p> <p>2 入院患者に対する緩和ケアの実施状況</p> <p>-2 「緩和ケア病棟入院料」の届出を行っている病院について</p> <p>-ア 登録した者のうち入院できた者の割合</p> <p>-イ 緩和ケア病棟登録者数</p> <p>-ウ 緩和ケア病棟の病床稼働率</p> <p>-エ 緩和ケア病棟登録者について、登録後、入院までの平均日数</p> <p>-オ 緩和ケア病棟の平均在院日数</p> <p>病院</p> <p>病院</p> <p>病院</p> <p>診療所</p> <p>診療所</p> <p>診療所</p> <p>3・2 医師緩和ケア研修会の受講状況</p> <p>3 訪問診療を実施している診療所について、緊急時の対応等</p> <p>4 在宅緩和ケアを実施していない診療所について、今後の実施予定</p>		
ア 地域緩和ケアを全都で推進	都民	患者	家族						
イ がん診療に携わる医師及び医療従事者が緩和ケアに関する基礎的な知識を習得	都民	患者	患者						
ウ 緩和ケアの適切な理解のための普及啓発の実施	都民	患者	家族						
		患者	家族						
		患者	家族						
		患者	家族						
		患者	家族						
		患者	家族						

(4 高度ながん医療の総合的な展開－小児がん)

分野別施策	調査対象						設問 No	設問内容	備考	
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点		小児 家族	病院				診療 所
			患者	家族						
4 高度ながん医療の総合的な展開										
(3) 小児がんに対する総合的な支援体制の構築										
ア 都の特性を活かした小児がんの医療提供体制を構築				小児 小児 小児 小児 小児 小児 小児			<p>&lt;集約化&gt;</p> <p>6 がんの部位</p> <p>7 現在の受診状況(入院・外来)</p> <p>8 がんが見つかったきっかけ(普段と様子が違う、定期健診、他の疾患治療中等)</p> <p>9 最初に医療機関を受診してからがんと診断されるまでの期間</p> <p>10 診断された医療機関</p> <p>11 診断されるまでの間、どのような医療機関を受診したか</p> <p>12 当院にたどり着いたきっかけ</p> <p>&lt;安心・納得&gt;</p> <p>13 治療方針決定の際に、医師等から十分説明があったか、説明は分かりやすかったか、不安は解消したか</p>			
イ 都民及び医療機関に対する小児がんの普及啓発の実施	都民			小児			<p>&lt;基礎知識&gt;</p> <p>28 成人のがんと異なり、希少がんであること、晩期合併症があること、長期フォローアップが必要であることを知っているか</p>			



分野別施策	調査対象						設問 No	設問内容	備考	
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点		小児 家族	病院				診療 所
			患者	家族						
5 患者・家族の不安の軽減										
(1) がんに関する相談支援・情報提供の充実										
ア 患者・家族のニーズに合った相談支援を、相談支援センターを中心として提供する	都民 都民	患者 患者 患者 患者 患者 患者	家族 家族 家族 家族 家族 家族				<p>&lt;相談支援について&gt;</p> <p>29 がん相談支援センターを知っているか</p> <p>-2 「知っている」場合：その病院で治療を受けている患者・家族でなくても利用できることを知っているか</p> <p>30・18 がん相談支援センターを知っているか、利用したことがあるか</p> <p>-2 「利用したことがある」場合：満足度、今後の利用希望の有無</p> <p>-3 「利用したことがない、利用したくない」場合：その理由</p> <p>31・19 がん相談支援センターでは、就労などの相談も可能なことを知っているか</p> <p>32・20 普段、がん相談支援センター以外に、どのようなところに相談しているか</p> <p>33・21 どういったところなら相談したいか</p> <p>34・22 療養生活上、不安なこと、知りたいこと（自由記載）</p> <p>&lt;就労について&gt;</p> <p>35 がん罹患後の就労状況</p> <p>-2 仕事を継続している人：職場の理解度、制度の充実度、告知の有無</p> <p>-3 離職した人：辞めた理由、どこかに相談したか、どのような制度があれば継続できたか</p> <p>36 職場の基本状況（規模、業種、業務内容、雇用形態等）</p> <p>37 治療終了後、就職活動をした人：再就職の状況（正規、非正規等）</p> <p>38 治療のために家族が仕事を辞めたり、軽減したりしたか</p> <p>39 就労に関し困っていること（自由記載）</p> <p>23 がん罹患した家族の介護のため、仕事を辞めたり、軽減したりしたか</p> <p>-2 仕事を継続している人：職場の理解度、制度の充実度</p> <p>-3 離職した人：辞めた理由、どこかに相談したか、どのような制度があれば継続できたか</p> <p>24 職場の状況（規模、業種、業務内容、雇用形態等）</p> <p>25 治療が一段落した後、就職活動をした人：再就職の状況（正規、非正規等）</p> <p>26 他に介護等が必要な家族がいるか</p> <p>27 就労に関し困っていること（自由記載）</p>			
		患者 患者 患者								
		患者 患者 患者	家族 家族 家族							
			家族 家族 家族							

<p>イ 患者・家族が利用しやすい情報資源を整備する</p>	<p>都民 都民</p>	<p>患者 患者 患者 患者</p>	<p>家族 家族 家族 家族</p>				<p>&lt;情報の入手方法等&gt;</p> <p>30 「東京都がんポータルサイト」を知っているか</p> <p>31 普段、様々な情報を入手する際、どのような媒体を活用するか</p> <p>40・28 がんに関する情報を、普段、何から入手しているか</p> <p>41・29 「東京都がんポータルサイト」を知っているか、見たことがあるか</p> <p>-2 「知っている」場合：何で知ったか</p> <p>42・30 がんに関して、どのような情報が欲しいか（自由記載）</p>	
<p>(2) 小児がん患者・家族に対する相談支援体制の整備</p> <p>ア 小児がん患者・家族のニーズに合わせた相談支援体制を構築</p>				<p>小児 小児</p>	<p>小児</p>	<p>小児 小児 小児 小児</p>	<p>&lt;相談&gt;</p> <p>14 普段、がんについて相談しているところがあるか</p> <p>15 上記以外にどのようなところに相談したいか</p> <p>&lt;教育&gt;</p> <p>16 入院中又は自宅療養中に学校からの教育は受けられているか（いたか）</p> <p>-2 「受けられている場合」：その内容（院内学級、訪問教育等）（入院、自宅別）</p> <p>-3 「受けられていない場合」：その主な理由（入院、自宅別）</p> <p>&lt;介護者の就労&gt;</p> <p>17 治療のために、離職したり、仕事を軽減したりしたか</p> <p>18 治療のため転居したりしたか</p> <p>19 兄弟、姉妹への影響について（自由記載）</p> <p>20 他の介護を要する同居者が居るか（居る場合：誰か）</p>	

(6 がん登録と研究の推進)

分野別施策	調査対象						設問 No	設問内容	備考	
	施策の方向性 個別目標	都民	拠点		小児 家族	病院				診療 所
			患者	家族						
6 がん登録と研究の推進										
(1) がん登録の更なる推進 ア 質の高いがん登録を普及、実施 イ データの集計・分析を行い、都内のがんの実態把握に役立てる	都民	患者					<全国がん登録について> 32・43 「全国がん登録」を知っているか 33・44 全国がん登録を進めることにより期待すること			
(2) がんに関する研究の推進 ア 早期の診断と最適な治療の実施を目指した先進的な医療の実現等に向けた研究を推進										